

令和8年度 第1回 静岡県立駿河総合高等学校 学校運営協議会 議事録

1 開催概要

- (1) 日 時 : 2026 年 (令和 8 年) 5 月 21 日 14:30～
- (2) 場 所 : 静岡県立駿河総合高等学校 会議室
- (3) 出席者 : 吉澤委員、京井委員、小坂委員、櫻田委員、今成委員
校長、副校長、教頭、事務長、総務課長、教務図書課長、保健課長、
学校魅力推進課長、研修課長、情報管理課長、
1 年学年主任、2 年学年主任、3 学年主任

2 内 容

(1) 委員の任命

会長、副会長の選出

会長に吉澤委員、副会長に京井委員を再任。

(2) 着任の挨拶と学校経営計画書の説明(校長)

- ・ 4 月に着任。開校準備に関わった縁ある本校で、地域に愛され信頼される学校づくりに尽力する。
- ・ 「学力向上」「品位ある生活」「キャリア支援」「人権・共生」の 4 柱を設定する。
- ・ 中間テストを廃止。スモールステップでの定着を図るが、生徒からは「常に勉強が必要」との声も出ている。
- ・ 1 年生の強制加入を「任意」へ。加入率は約 8 割を維持。一部部活動を統合し再編。
- ・ 11 月に全国大会（富山・愛知）にて、本校の教育課程や防災教育の成果を発表する。
- ・ 部活動遠征バスの事故を受け、行程表の事前確認とシートベルト着用の徹底を指示済み。PTA総会でも周知する。

(3) 協議

ア 吉澤委員

- ・ 地域と学校が一体となって子供たちを育てる組織を目指してほしい。
- ・ 2 月の「高校生探究フェスタ」での準グランプリ獲得など、生徒の探究活動の成果を高く評価する。
- ・ 本校設立時の「総合学科」および「共生共育」の理念を再確認し、地域連携の継続を期待する。

イ 京井委員

- ・ 幼児教育の現場から「主体的学び」の重要性を指摘。学校側とも言葉の定義（自主的と主体性の違い）をすり合わせるべきと提案する。

ウ 小坂委員

- ・経営計画書において、目標と手段の間の指標（K P I）が不足していると指摘する。
具体的な頻度や数値目標を明確にすることで、より深い議論が可能になると提言する。

エ 櫻田委員

- ・部活動遠征バスの事故を受け、学校の対応策について教えてほしい。

オ 今成委員

- ・明日のP T A総会で副会長に推薦される。学校現場では色々なことが話合われているのだと感じた。

カ 校長

- ・部活動遠征バスの事故を受け、行程表の事前確認とシートベルト着用の徹底を指示済み。P T A総会でも周知する。

キ 学校魅力推進課長

- ・三菱みらい育成財団の助成による地域防災活動を継続中である。
- ・ユネスコスクールとして、ユニクロと連携した海洋教育ワークショップを実施予定。

ク 総務課長

- ・6月に抜き打ちでの「津波避難（垂直避難）訓練」を実施し、実効性を検証する。

（４）学校経営計画の承認

- ・学校経営計画：委員からの質疑・提言を経て、全会一致で承認。

4 次回予定

- ・日時：9月16日 14:30～
- ・内容：南の丘分校との合同開催を予定。